ダンススタジオ「サロンドモア」のキッズたちが華麗なダンスを披露。

4/1

イベントプログラムや亀居城のパンフレットを配っていた玖波中２年の小池菜月さん（写真左端）は「学校で募集があったので、ボランティアに参加しました。天気がいいので、桜を楽しんでください」と笑顔で話してくれた。

桜舞う、みんなのまつり

亀居公園

暖かい日差しのもと、亀居城まつりに多くの人が訪れた。例年と比べ今年は桜が見事に咲き誇る中で、ステージや特産品の販売コーナーなどさまざまな催しを満喫した。

油見から参加した向井千恵美さん、藤貞展枝さん、松本敬子さんは「舞台と桜を見に来ました。天気もいいし、桜がきれいでよかったです。もっと多くの人でにぎわうといいのに」と話してくれた。

4/2

地元で活動する「ふたりビートルズ」の歌声が春の宵に響く。

青いひかりに思いをのせて

大竹駅前ひろば

4月2日の世界自閉症啓発デーに合わせ、子育てと発達障害を考える会「ハートとハート」の主催により、ブルーライトアップ点灯式が行われた。

点灯されたイルミネーションで、大竹駅前が青く彩られた。

代表の藤村瑞穂さんは「障害も個性であり、多様性を認める社会であって欲しい」と語ってくれた。

点灯式の後には、地元音楽家などのライブ演奏会も行われ、観客は配られた青いケミカルライトを歌に合わせて振り、一体となって盛り上がった。

4/9

（右）小方学園では、中学生と小学生が仲良く入場。
（中）小方学園の歌を熱唱。
（左）中学１年生の石光由希子さんの誓いの言葉。
（下）歓迎の言葉に小学１年生が「一年生になったら」を高らかに歌って応えた。

目を輝かせた入学式

小方学園

希望に胸ふくらませた新入生を迎え、小方学園では、小中学校合同で入学式が行われた。今年は小学生66人、中学生56人が学園の一員となった。

新入生歓迎の言葉として、小学校代表の寺戸優太くん（6年）が「今日からぼくたち小方っ子の仲間です」と、中学校代表の伊勢岡悠（はるか）さん（3年）が「いろいろなことに挑戦し、可能性を広げていきましょう」と、温かい言葉を贈った。

中学校の新入生を代表しては、石光由希子さんが「元気で充実した学校生活を送ります」と誓いの言葉を述べた。

広島広域都市圏協議会事業

「初夏の錦帯橋とウエスタンリーグで活躍する広島カープを一緒に応援しよう」

問い合わせ
広島広域都市圏協議会事務局
（広島市広域都市圏推進課内）
☎082-504-2017

ウエスタンリーグで活躍する広島カープ（2軍）の試合観戦と錦帯橋を巡るツアーです。

と　き　6月23日㈯
9時～17時30分
・錦帯橋　10時～11時30分
・試合観戦　12時30分開始

集合・解散場所　広島駅新幹線口

ところ　錦帯橋、由宇練習場

対戦相手
オリックス・バッファローズ

定　員　80人

※　申込多数の場合は抽選

参加料　2,000円（交通費込）

※　昼食は各自でお取りください。

※　小学生以下は、大人同伴

申し込み
5月18日㈮までに必要事項を記入し、往復ハガキ（1枚5人まで）で、広島市広域都市圏推進課内広島広域都市圏協議会事務局（〒730-8586　住所不要）へ。（消印有効）

※　広域都市圏ホームページからも申し込めます。

必要事項　参加者全員の住所、氏名、年齢、電話番号。

詳しくは、広域都市圏ホームページへ。

広島広域都市圏協議会は、広島市を中心として、広島県と山口県にまたがる11市13町で構成し、圏域全体の発展を目指し、連携してさまざまな交流を行うことを目的とした協議会です。

元気に集う場に

おがたピア（地域福祉会館）

旧小方公民館が地域福祉会館「おがたピア」として生まれ変わった。開館式には地元の方などが列席し、入山市長は「皆さんが元気に集う場所として活用してください」と施設の門出を祝った。

式典後は、真新しい内装の館内がお披露目され、シルバー人材センター会員の手打ちそばなどが振る舞われた。

「おがたピア」では、5月19日土曜日には「シルバーフェア」が開催され、高齢者の手作り作品の展示販売や、懐かしい小方の風景を写した写真展も開催される予定となっている。

4/13

（上）生きがいづくりの場として、新たなスタートを切った「おがたピア」を祝してテープカット。
（下）手打ちそば、すしに舌鼓を打つ。

4/15

福岡から演奏に来た「ロス・アミーゴスin博多」の黒沢正孝さん（73歳）は、サンポーニャ（写真）やケーナを吹く。「指を使うので脳トレになり、腹式呼吸で健康にいい」。

（上）家族３人編成の「イトチャンズ」の演奏で幕を開けた音楽祭。
（下）ミンダナオ島の舞踊は、観客の目をくぎ付けにした。

アンデスの風と音楽と

三倉岳県立自然公園

まるでアンデスに吹く風を思わせるような春の一日、山開きフェスティバル「マチュピチュ・エン・ハポン」が催された。日本のマチュピチュに見立てた三倉岳のふもとのステージでは、南米アンデス地方のフォルクローレを中心にした音楽が、終日鳴り響いた。

アルプホルンのファンファーレでスタートを切ると、トップバッターで出演した玖波の伊藤さん一家の「イトチャンズ」が、軽快に縦笛のケーナを奏で、まつりを盛り上げた。

県内のみならず、中四国、九州、北陸からも駆け付けた音楽仲間がそれに続き、訪れた人々の心を和ませた。

今年はフィリピンのミンダナオ島で「子ども図書館」を運営する松居友さんが、17歳から20歳代の若者を連れて来日し、鮮やかな衣装で民族舞踊を披露してくれた。

岩国市から訪れた管昭英さん（71歳）は、「三倉岳には何度も登ったことがありますが、このまつりは初めてです。三倉岳は近場で楽しめるいい山です」と笑みをこぼした。

出演者は鮮やかな民族衣装をまとい演奏する。ケーナの音色が、三倉岳のふもとにこだまする。